

【研究課題名】

ニッケル-炭素結合を鍵とするニッケル錯体の新規触媒機能探索

【各研究項目の連携状況】

領域内の他の研究グループとの連携状況（予定を含む）について、①簡略化した共同研究内容②連携研究代表者姓（研究項目班）③共著論文の有無（件数）を研究内容毎に記載して下さい。

① 低配位リン配位子の化学、②小澤文幸教授（A03）、③有（1）

① 鉄触媒による二酸化炭素還元における配位子効果、②吉澤一成教授（A04）、③投稿準備中

【研究費の使用状況（設備の有効活用、研究費の効果的使用）】

装置名：ブルカー・オプティクス社製 可動式フーリエ変換赤外分光光度計

用途：不安定化合物の赤外分光スペクトルを、グローブボックス内で測定するための装置。触媒の同定や、触媒金属の電子環境解析に利用している。また、本装置は吉澤一成教授（A04）との共同研究に大いに活躍している。

【原著論文】

1. G. Nakajima, *Y. Nakajima, K. Matsumoto, V. Srinivas, S. Shimada, "Nitrile Hydroboration Reactions Catalysed by Simple Nickel Salts, Bis(acetylacetonato)nickel(II) and its derivatives," *submitted to Adv. Synth. Catal.*

【総説・解説】

- ◎ *F. Ozawa, *Y. Nakajima, "PNP-Pincer Type Phosphaalkene Complexes of Late-Transition Metals", *Chem. Rec.* 2314-2323 (2016).